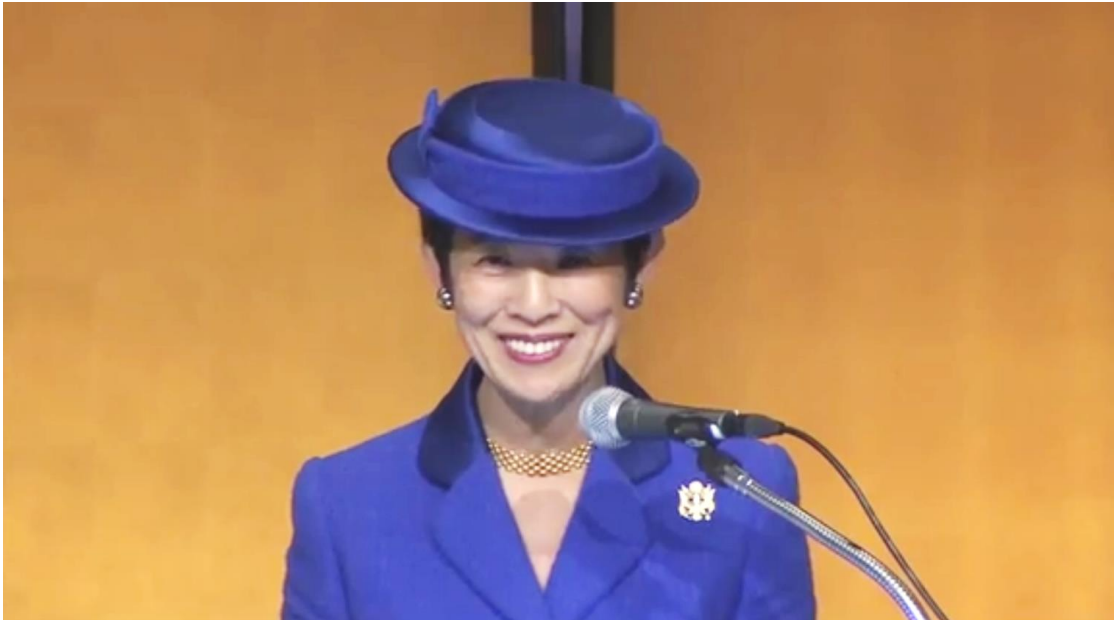


高円宮妃殿下のおことば



本日は AFS 創立 100 周年 AFS 日本 60 周年の記念式典が、OB、そして日頃からボランティアとして参加しておられる皆さまとともにお祝いできますことを大変嬉しく思います。

AFS の創立は世界平和と異文化理解・交流を今掲げていらっしゃるその精神と全く正反対のことが起こっていた時代であり、その第一次世界大戦のさなか、フランスに於いて傷病兵の救急搬送をボランティアの若者たちに実際の戦争をしない方で進めるというその活動を思い付かれたわけです。その活動だけでも賞賛に値するものですが、先程の映像で 1947 年に、また終戦後わずか 2 年で AFS のボランティア精神を世界平和とそして国際交流・異文化の理解に注ぎ込むということを決めた、そのことが AFS の歴史に新たな時代の幕開けとなったと思います。青年たちの志を引き継いだ若者たちによって、二度と戦争が起こらないように、起こさないために、相互理解を深めることを目的とした交換留学プログラムの始まりがそこだったというふうに理解しております。



異文化交流を通して多様性を知り、それを尊重し、異文化理解を実践していくことは、まさに今日の世界に必要なものだと考えます。AFS 交換留学プログラムがその場を若者たちに提供し続けていることは世界への大いなる貢献と言えます。関係者の皆さまの長きに渉るご尽力とご成果に心より敬意を表します。

可愛い子には旅をさせよと申します。私も子供たちに度々言い続けて参りましたが、なかなか行ってくれません。出来るだけ沢山の若者たちに是非違う文化、違う国、そこに住む人々と時間と空間を共有して欲しいと思います。世界中が繋がっていくためには、お互いの文化を理解することが大事であり、お互いが使っている一つの単語がどのようなことを意味しているかを分かるようにならなくてはなりません。それこそここにいる皆さまがよくお分かりのことだと存じます。

ホームステイ経験は一生の宝物です。これを可能にするのも、この趣旨に賛同なさったボランティアが留学生のために自らの家を開放し、異文化理解の実践の場を提供するホストファミリーの皆さまの存在が欠かせません。特に日本では自分の家を他の人たちに開けるというのが習慣ではないので、その分日本のホストファミリーには多くのストレスと負担が掛かっているのかも存じません。留学生を温かく励まし、また厳しく指導し異文化の適応を支援する重要な役目を担う方々もこの趣旨に賛同したボランティアの方々です。全ての活動が多くのホストファミリーと 3,500 を超えるボランティアによって可能となります。皆さまのご苦勞やご努力が若者の将来の土壌であり、そこに注がれる皆さまの愛情が肥料となります。

今後も世界中の若者に異文化理解の舞台を提供し続けて頂き、その結果いつの日か世界が一つの輪で繋がる日が来ることを願って本日の式典に寄せる言葉と致します。  
本日は誠にありがとうございます。



※この映像は、[KOKO 基金](#)のご支援より撮影されました